

スローガン「未来を創造する IMDIA」

2018 年度
IMDIA 年次総会

日時 2017 年 5 月 7 日(月) 9:30~10:45
場所 YMG(Matsushita Gobel Foundation)



インドネシア金型工業会

- ・開会の辞
- ・会長挨拶
- ・議長選出
- ・議案審議

1号議案

2017 年度活動報告と会計報告に関する件

2号議案

定款変更の件

3号議案

理事・監事改選に関する件

4号議案

2018 年度活動方針と予算案に関する件

- ・議長解任
- ・新任部会・委員会委員委嘱状交付
- ・マスターインストラクター認定書交付
- ・閉会

議案審議

1号議案 2017年度活動報告に関する件

年度総括

IMDIA は 2017 年度 82 件のワークショップ・委員会・セミナー・展示会・日本ミッションを実施しておりますが、会員皆様のサポートを頂きながら実施する事ができました、特にワークショップは会員からのインストラクター派遣によって実施する事ができなすので、IMDIA を代表しましてご協力を頂きました会員の皆様に深く感謝申し上げます。また会員からのインストラクターの派遣につきましてはなるべく仕事にご迷惑が掛からない様に、事務局に対してインストラクターとの連携を密にして実施する様に指示をしております。2017 年度も JETRO からの支援でモールド保全の中級・上級とモールド・プレス金型設計、金型管理、金属プレス上級ワークショップをまた日本厚生労働省からは樹脂成形と研削盤作業で専門家の派遣を受けて評価者認定を実施できております。しかし、2017 年度は国家認定職種の機械検査・金型仕上げ・設備保全・研削盤・フライス盤・樹脂成形・金属プレスで予算不足が発生し、大きな予算が必要なフライス盤について今年中止をしております。その他の国家認定職種については IMDIA ワークショップと同じ様に会場費、昼食代、休憩代を IMDIA が負担をし、認定試験費用、材料費、工具代は参加者負担として実施しております。以前は国家認定試験当日にキャンセルが多くありましたが、参加者負担にして頂いてから出席率はとてもよくなっております。また今年も理事・セニョールアドバイザーから Banner 掲載費用として 95,000 万 Rp の支援を受けまして、2017 年度ワークショップ費用に充てております。2017 年度新しい研修アイテムとして松下ゴーベル財団と共同でロボット溶接管理者研修の初級と中級を実施し、11 名が中級に進んでおります。プレス加工後の組立工程としての溶接は不可欠であり、それにロボットを活用することは省人化と品質向上につながります。今後 IMDIA としても金型製作効率化のワークショップが必要になってくると強く感じております。

2017年度活動結果と今後の課題

1. 人材育成強化

人材育成強化は IMDIA 会員からのインストラクター派遣とワークショップ会場提供のご支援があってこそ、達成できておりますので、会員のご支援とご協力にお礼を申し上げます。2017 年度人材育成目標はインストラクターでは単年 75 名で累計 555 名と国家・IMDIA 認定者では単年 350 名で累計 3,293 名となっております。目標に対して実績はインストラクター 39 名で 52%と国家・IMDIA 認定者 297 名で 85%の達成率となっております。2017 年度新しく国家認定試験金属プレス作業 1 級を実施し 4 名が受験しましたが、認定者は 0 となっております。また JETRO 支援で実施したモールド・プレス金型設計、金型管理、モールド金型保全の上級は 25 名受講し、14 名が合格しておりますが、上級インストラクター認定者は 0 となっております。今後 IMDIA が人材育成を進める上でインストラクター育成が必要不可欠である事は明らかであり、またインストラクターは選ばれた優秀人材でありますので、ワークショップでインストラクターとして更なる経験する事により、学ぶことのできないリーダーシップ・教え方・さらなる専門性向上が期待でき近い将来中堅幹部として会社を支える人材になる能力を有すると思っております。

2. 組織力拡大

2017 年度は組織力拡大とは相反した方針を会員に示す必要がありました。それは 2016 年までは多くの支援または案件を取って余裕のある財政運営を行ってきましたが、支援の縮小と案件が取得できずに資金不足となり、理事会にて会費の値上げの検討をしましたが、まずは受講者負担にするのが会員に対して公平な対応ではないかとの意見によりまして、国家認定試験の費用は参加者負担にして頂きました。会員先が負担するとなると人選にも慎重になりまた途中の挫折はできなくなり、受講者は真剣さが増しております。それから 2015 年 10 月から日本政府から ODA 見返り資金を活用しての YMG 内に Hi-Tech Mold & Die Center への設備貸与は既に 2 年半を経過しておりますが、多くの課題に直面しておりますが粘り強く活動を続けており、2018 年度中の実現を目指しております。貸与が可能になりますと現在設備を借用している研削盤・フライス盤・樹脂成形・金属プレスは自前にてでき、将来金型技術に不可欠なシミュレーション・5 軸・NC 研削・カーボングラファイト加工・測定フィードバック NC データの上級の更なる上のワークショップが可能となります。会員数拡大は 510 会員を目指しておりますが、結果は 504 会員となり年間増加会員は 24 となっております。会員増加は IMDIA

の要求をインドネシアと日本へする場合の基本となり、また厳しい資金不足が続きますので、会員増加は資金改善に直結しますので、色んな機会を通じて IMDIA の活動アピールし会員獲得を目指して行く必要あります。

3. 金型現調率向上 2017 年度 59%

金型現調化率 60%の目標達成の為に金型裾野産業強化、業務・技術提携と合併推進 5 社、高精度・大型金型投資促進の取組を進めてきましたが、結果は 59%の未達となっております。

金型裾野産業強化では 2017 年 1 月 1 日商業省から施行された鉄鋼輸入規制の影響が 6 月から金型用鋼材の輸入申請の遅れ、量規制と鉄鋼を材料としてくる金型用スプリングとボルトへの輸出前検査と通関遅れが発生しており、この問題に IMDIA は 9 月 15 日に工業省に対して苦情申請を行い、10 月 4 日工業省にて IMDIA 会員 27 社から 39 名が出席を行いまして、現状を強く訴えております。その後 2018 年 2 月から新しい鉄鋼規制が施行され合わせてオンラインでの申請にてよりスムーズな金型部材輸入ができるようになっております。しかし金型用部材では大型モールドベースと鋼材調達にはまだ課題もありますので、引き続き活動を進めております。業務・技術提携と合併推進の 5 社目標については 2017 年 4 月と 10 月に日本の Intermold 展示会と Suwa Messe 展示会への参加をしまして、マッチングの機会を作りましたが、会員からの展示会への国内の景気減退もあり、0 の結果となっております。今後の金型現調化は高精度または大型金型への取組が必要であり、これらに直ぐに対応できるのでは合併推進しかないと思っておりますので、インドネシア側から日本またはその他の国への合併企業へメッセージを送って行きたいと思っております。金型業務協業推進はプレス・モールド・Casting の分野にリーダー会員を決めて進めて来ておりますが、モールド金型についてスタートを行っておりますが、技術レベルの差もあり困難な状況が続いておりますが、金型技術交流などを行って成功させて頂きたいと思っております。

2017年度活動内容

No.	Event Name	Place	Operation Start	Period (Day)	Application Member
1	Director Meeting on April	MAJ	6-Apr-17	1	10
2	Japan Intermold 2016	Japan	15-Apr-17	4	9
3	Director Meeting on May	YMG	3-May-17	1	9
4	General Meeting	YMG	10-May-17	1	86
5	Seminar General Meeting	YMG	10-May-17	1	86
6	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	BNSP	23-May-17	1	15
7	Press Design Basic	YMG	6-Jun-17	3	29
8	Director Meeting on June	MAJ	8-Jun-17	1	10
9	Mold Management Basic	YMG	13-Jun-17	3	31
10	Press Maintenance Basic 1	MAJ	10-Jul-17	2	13
11	Press Maintenance Basic 2	PMI	12-Jul-17	2	12
12	Press Maintenance Basic 3	STEP	17-Jul-17	2	12
13	Mold Maintenance Basic	KMK	19-Jul-17	2	15
14	Ability Test Mechanical Inspection Basic	YMG	25-Jul-17	1	66
15	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	PMI	25-Jul-17	1	15
16	Mold Maintenance Welding Basic 1	YMG	26-Jul-17	2	6
17	Mold Maintenance Welding Basic 2	YMG	31-Jul-17	2	6
18	Mold Maintenance Welding Basic 3	YMG	2-Aug-17	2	6
19	Press Setional Meeting	YMG	2-Aug-17	1	10
20	Training for Iwatani Welding Contest	YMG	7-Aug-17	12	10
21	Mold Design Basic	YMG	8-Aug-17	3	20

22	Director Meeting on August	Asalta	10-Aug-17	1	10
23	Measurement Skill Basic-YMG I	YMG	10-Aug-17	1	9
24	Measurement Skill Basic-YMG II	YMG	11-Aug-17	1	13
25	Measurement Skill Basic-YMG III	YMG	14-Aug-17	1	14
26	Measurement Skill Advance-YMG	YMG	15-Aug-17	1	14
27	Measurement Skill Basic-KMK I	KMK	22-Aug-17	1	14
28	Measurement Skill Basic-KMK II	KMK	23-Aug-17	1	12
29	Casting Maintenance Basic	Nusa Metal	29-Aug-17	2	13
30	Mold Design Advance Stage 1	YMG	6-Sep-17	3	4
31	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	YMG	19-Sep-17	1	12
32	Mold/Die Management Advance Stage 1	YMG	20-Sep-17	3	8
33	Grinding Middle Theory	YMG	26-Sep-17	2	5
34	Casting Design Basic	YMG	27-Sep-17	3	14
35	Director Meeting on October	JETRO	5-Oct-17	1	10
36	Grinding Middle Grup A, B, C	KMK	5-Oct-17	2	6
37	Grinding Middle Grup A Step 1	KMK	10-Oct-17	3	2
38	Press Setional Meeting	MAJ	11-Oct-17	1	11
39	Grinding Middle Grup B Step 1	KMK	13-Oct-17	3	2
40	Suwa Messe Japan	Japan	17-Oct-17	5	3
41	Grinding Middle Grup C Step 1	KMK	18-Oct-17	3	2
42	Grinding Middle Simulation Test	KMK	23-Oct-17	1	4
43	Plastic Injection Basic	KMK	24-Oct-17	3	18
44	Plastic Injection Middle	KMK	30-Oct-17	3	7
45	Press Die Maintenance Middle	MAJ	31-Oct-17	3	14
46	Plastic Injection Advance	KMK	2-Nov-17	2	7
47	Mold Design Advance Stage 2	YMG	8-Nov-17	3	4
48	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	POLMAN	9-Nov-17	1	13
49	Mold/Die Management Advance Stage 2	YMG	15-Nov-17	3	8
50	Mold/Die Maintenance Welding Advance	YMG	21-Nov-17	3	8
51	Press Design Advance Stage 1	YMG	28-Nov-17	3	8
52	Support Sectional Meeting	YMG	29-Nov-17	1	6
53	Manufacturing Indonesia 2017	JI Expo	6-Dec-17	4	1,290
54	Spinning Top Manufacturing Indonesia 2017	JI Expo	9-Dec-17	1	35
55	Director Meeting on December	MAJ	14-Dec-17	1	8
56	Die Finishing Basic Toyota-1	TMMIN	15-Jan-18	4	11
57	Die Finishing Advance-1	TMMIN	25-Jan-18	2	5
58	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	EBARA	16-Jan-18	1	15
59	Die Finishing Basic Toyota-2	TMMIN	21-Jan-18	3	11
60	Die Finishing Middle-1	TMMIN	29-Jan-18	3	9
61	Die Finishing Basic Toyota-2	TMMIN	29-Jan-18	2	11
62	Die Finishing Advance-2	TMMIN	1-Feb-18	2	5
63	Die Finishing Middle-2	TMMIN	5-Feb-18	3	9
64	Die Finishing Basic Toyota-3	TMMIN	8-Feb-18	3	11

65	Die Finishing Advance-3	TMMIN	8-Feb-18	3	5
66	Die Finishing Middle-3	TMMIN	13-Feb-18	1	9
67	Press Design Advance Stage 2	YMG	31-Jan-18	3	6
68	Equipment Maintenance Basic I	YMG	29-Jan-18	3	15
69	Equipment Maintenance Basic 2	YMG	7-Feb-18	2	15
70	Director Meeting on Februari	Nusa Metal	8-Feb-18	1	12
71	Mold Maintenance Middle	PMI	5-Feb-18	3	11
72	Mold Maintenance Advance Stage 1	YMG	7-Feb-18	3	8
73	Metal press Work Basic	PMI	27-Feb-18	3	7
74	Metal press Work Middle	PMI	23-Feb-18	2	7
75	Metal press Work Advance	PMI	19-Feb-18	2	4
76	Public-private joint meeting	YMG	19-Feb-18	1	16
77	Robot & Welding Management Traiing Middle	YMG	13-Mar-18	5	11
78	Meeting Komite Sertifikasi Nasional	TMMIN	20-Mar-18	1	0
79	Casting Maintenance Middle	Nusa Metal	26-Mar-18	3	11
80	Support Sectional Meeting	MISUMI	28-Mar-18	1	10
81	Equipment Maintenance Middle	Denso	2-Apr-18	5	10
82	Equipment Maintenance Advance	Denso	9-Apr-18	5	6

2017 年度収支報告

	項 目	2017年度実績	摘 要
収 入	2016年度繰越金	136.718.300	
	年会費	483.512.250	レギュラーメンバー202
	助成金	0	
	受取利息	823.983	銀行普通預金金利年 1.25%
	活動基金	184.252.757	JETROワークショップ、ESSPPトライアル、 Web Site Banner、テキスト販売
	その他	61.912.500	
	合 計	867.219.790	
支 出	租税公課	2.685.200	給与税
	荷造運賃	0	
	水道光熱費	0	
	旅費交通費	10.819.600	出張費用・その他
	通信費	22.488.200	Web site、電話・FAX代
	広告宣伝費	8.529.400	見本市展示費用
	会議費	7.313.300	総会・その他会議
	損害保険料	0	
	修繕費	0	コンピューター修理
	消耗品費	6.112.700	プリンターインキ代、コピー用紙
	減価償却費	0	
	福利厚生費	29.753.500	医療費・昼食費
	給料賃金	294.606.400	事務局員4名給料・残業代
	外注工賃	0	
	利子割引料	0	
	地代家賃	48.000.000	IMDIA 事務所借用費
	貸倒金	0	
	新聞図書費	0	
	リース料	0	
	教育研修費	287.708.700	セミナー、ワークショップ、訓練費用
諸会費	0	FADMA、KADIN年会費	
通勤費	16.848.000	事務局員通勤費	
支払手数料	450.000	銀行送金手数料	
事務用品費	6.000.000	コンピューター購入費用	
雑費	2.924.400		
小 計	744.239.400		
一般会計残高	122.980.400		
合 計	867.219.800		

2017 年度収支(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

項 目	2017年度収入	2017年度支出	残高	記 述
2017 年度 収 支	867.219.800	744.239.400	122.980.400	

貸借対照表(2018 年 3 月 31 日時点)

資産の部	金 額	負債・資本の部	金 額
現金	2,963,000	未払費用	0
普通預金	120,017,400	前受金	0
定期預金	0	積立金	0
未収入金	0	退職引当金	0
前払金	0	繰越金	122,980,400
合計	122,980,400	合計	122,980,400

2017 年度会計監査報告書

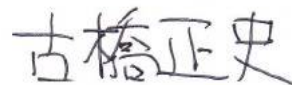
2017 年度収支報告と貸借対照表について、会計監査を実施した結果、事実と相違ない事を確認しております。

2018 年 4 月 12 日

監査役



阿部 栄一



古橋 正史

2号議案 定款変更の件

1. 現行: 第17条 2 項(顧問・相談役について)

相談役は、インドネシア国内で商品を生産と販売をしているセットメーカーのトップに準ずる人を理事会が推薦し、会長が委嘱する。

改定案: 第 17 条 2 項2に以下の 2 項の2を追加する。

相談役の中で、重要な役職についている人を最高相談役とし理事会が推薦し、会長が委嘱する。

2. 現行: 13条(会長・副会長・理事・監事職務について)

改定案: 第 13 条 8 項を追加する。

会長または副会長経験者の中で、退任する場合には名誉会長と名誉副会長職を理事会の推薦により、会長が委嘱する。ただし名誉会長と名誉副会長職は個人永久職とするが、理事会での議決権はない。

3号議案 理事・監事に関する件

4号議案 2018年度活動方針と予算案に関する件

2018 年度活動方針

1. 人材育成

- 1) インストラクター育成(50名増、累計572名)
- 2) 国家・IMDIA 認定者(340名増、累計3, 583名)
- 3) 関連分野への人材育成拡大(ロボット・溶接・塗装)

2. 組織力強化

- 1) 財政基盤強化(経費削減・国家認定試験費用参加者負担・スポンサー探し)
- 2) 最高相談役・名誉会長・名誉副会長職設置(政府嘆願強化・組織層拡大)
- 3) 会員数拡大(31 会員増、累計 535 会員)

3. 金型現調化率向上 63% (5ヶ年計画)

- 1) 業務協業協定推進(モールド分野での成功事例)
- 2) 金型ハイテクセンター設置嘆願(シュミレーション・高精度金型加工)
- 3) 金型輸出事業検討(業務平準化・技術と品質レベルアップ)

2018 年度予算案

	項 目	2018年度実績	摘 要
収 入	2017年度繰越金	122.980.400	
	年会費	549.200.000	レギュラーメンバー225
	助成金	0	
	受取利息	843.005	銀行普通預金金利年 1.25%
	活動基金	247.750.000	JETROワークショップ、ESSPPトライアル、Web Site Banner、テキスト販売
	その他	0	
	合 計	920.773.405	
支 出	租税公課	9.537.900	給与税
	荷造運賃	0	
	水道光熱費	0	
	旅費交通費	11.200.000	出張費用・その他
	通信費	32.100.000	Web site、電話・FAX代
	広告宣伝費	13.600.000	見本市展示費用
	会議費	14.865.000	総会・その他会議
	損害保険料	0	
	修繕費	11.000.000	コンピューター修理
	消耗品費	8.800.000	プリンターインキ代、コピー用紙
	減価償却費	0	
	福利厚生費	35.460.000	医療費・昼食費
	給料賃金	310.050.244	事務局員4名給料・残業代
	外注工賃	0	
	利子割引料	0	
	地代家賃	49.500.000	IMDIA 事務所借用費
	貸倒金	0	
	新聞図書費	0	
	リース料	0	
	教育研修費	265.480.000	セミナー、ワークショップ、訓練費用
諸会費	2.400.000	KADIN年会費	
通勤費	17.712.000	事務局員通勤費	
支払手数料	1.020.000	銀行送金手数料	
事務用品費	12.400.000	コンピューター購入費用	
雑費	12.000.000		
小 計	807.125.144		
一般会計残高	113.648.256		
合 計	920.773.400		

この予算案については2017年4月30日理事会の承認を得ております。

議長解任

新任部会・委員委嘱状交付

No.	部会・委員会	委員名	会社名
1	Support Sectional	Koji Yamada	Misumi Indonesia
2			

マスターインストラクター認定書交付

No.	Category	Name	Belong Name
1	Casting Design	Mr. Kristiforus Josep Rumlus	PT. Sinar Alum Sarana
2	Casting Maintenance	Mr. Firdies Ridwan	PT. Astra Otoparts Div. Nusa Metal
3	Press Maintenance	Mr. Elan Suherlan	PT. Sunstar Engineering Indonesia
4	Mold/Die Management	Mr. Ir. Drajat H., MM	PT. Trimitra Citrahasta
5	Mold Maintenance	Mr. Muhammad Anwar	PT. KMK Plastics Indonesia

インストラクターとして IMDIA ワークショップに協力した頂いたポイントが 20 点以上になればマスターインストラクターとして認定書を交付しております。ポイント計算は上級 4 点、中級 2 点、初級 1 点/日となっております。

閉会

添付資料

1. インドネシア経済状況

2017年の経済成長率は目標の5.1%には未達だが、ジョコウィ政権発足後最も高い成長率＝中央統計局(BSP)は5日、インドネシアの2017年の経済成長率が5.07%と発表しております。前年(2016年)の5.03%よりは高い成長ながら、政府目標の5.2%と中央銀行予測の5.1%には届かなかった。

ただ、5.07%成長はジョコウィ政権がスタートした2014年以降では最も高い成長率である。一方、2017年第4四半期(10-12月期)の経済成長率は前年比5.19%を達成、前期(第3四半期)比では1.70%の成長を達成した。また、前期(2017年第3四半期)の5.06%よりも成長は加速し、前年(2016年)第4四半期の4.94%よりも高い成長率であった。2017年度の国民一人当たりのGDPは3,877米ドルで、2016年度は3,605米ドルで7.5%アップとなっている。

2018年度経済成長率予測について2018年3月27日世界銀行インドネシアは南ジャカルタで開かれた講演会で2018年度の成長率を5.3%と設定したと発表した。その背景は資源価格の上昇による輸出の好調と投資の伸び、それに15年から17年3年間の中で政府支出が最も多かったと説明しております。

これらの成長を支えるインドネシアの自動車産業は2013年123万台をピークに2014年120万台、2015年103万台と下落が続いておりましたが、2016年度は上昇に転じて106万台で回復となっておりますが、2017年度は108万となり、2018年度は110万台の予測となっている。バイクは2011年に800万台を超えたが2012年には25%から30%の頭金規制が実施されて大幅な落ち込みとなり、2013・2014年には一時持ち直しと思われたがUBER・GOJEK(バイクタクシー)Eコマーズの普及により下落傾向が続いており、2016年には600万台を切り2017年度はさらなる下落となっている。2008年のインドネシア経済の内需を支えたバイクであるが、今後は自動車産業の国内販売と輸出に期待をかける。

2. インドネシア裾野産業状況

ASEAN10の中で2億6千万人の人口を有す大国であるにも関わらず、我々がベンチマークしているタイ国の産業レベルとは大きくかけ離れた状況となっており自動車産業の比較でタイは完成車メーカー15社で2百万台生産しているのに対してインドネシアは13社では輸出を含めて120万程度あるが、ティア1はタイでは700社に対してインドネシアでは250社となり、ティア2ではタイは2,400社に対してはインドネシアは800社で単純的に比較をすると自動車生産数はインドネシアはタイの半分であるが、ティア1と2は3分の1の規模となっている。この事はインドネシアの裾野産業はまだまだ発展していきなくその拡大の使命はIMDIAにあるのではないかと思います。またJETROが金型レベルを調査したタイ国との比較では品質とコストでは差がないが、技術ではタイ3.5に対して2.5で、納期はタイ3.7に対して2.8となっている。総合ではタイは3.5に対して3.0で最下位となっております。この事は昨年から皆様方に説明を行い、その取組を進めて頂いており少しずつではありますが改善の方向に向かっていくと確信しております。しかし、総合ではやっとフィリピンと同じレベルになったのではないのでしょうか。そしてインドネシアでの金型を含む裾野産業の課題は数多くあり、技術レベルの向上と人件費アップ対応の自動化・合理化への取組を進めながら、もうそこまで来ているIndustry Version 4とIoTの活用を考えて行く必要があります。これらの事を率先して実施する事により裾野産業の真のリーダーにIMDIAはなれるのではないのでしょうか。